

第6学年1組 道徳科学習指導案

令和3年2月3日

場所 6年1組教室

授業者 教諭 茂木 幸子

- 1 主題名 かけがえのない生命 内容項目 [D 生命の尊さ]
- 2 ねらい 生命が周りの人々に守られ、大切にされていることについて考える学習を通して、自分の存在が周りに与える喜びやその心地よさに気づき、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる。

教材名 「わたして何」(出典:「彩の国の道徳」(高学年)『夢に向かって』埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

内容項目【D生命の尊さ】の第5学年及び第6学年は、「生命が多く生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。」である。

人間やその他動植物にとって、生命はかけがえのない、唯一のものである。健康な時や生活が充実している時には、あまり感じないが、けがをしたり、病気になったり、身近な者の死に直面したりすることで、生命の存在を意識することが多い。しかし、生きていられることは決して当たり前の事ではなく、家族の努力で健康や安全が保たれたり、友達の励ましに勇気付けられたりしながら、互いに支え合いながら生きていられるのである。特に、児童は家族の保護なしで生きることは困難である。本来、生命が第一に優先されるべきことであるが、時に、自ら生命を絶ってしまったり、誰かの命を絶ってしまったりすることがある。このような事は許されることではない。人間が生命の大切さを知り、よりよく生きていこうと思えるようにするためには、生きることの尊さを心から感じて、生きていられること自体がとても感動的で素晴らしいことだということを自覚する必要がある。指導にあたっては、自分の存在意義が揺らいだり、悩んだりしたときに気付く生命の大切さについて考えさせる。特に、「家族のつながりや支えによって生きる命」に焦点を当て、自分の存在が周りに与える喜びやその心地よさに気付かせたい。また、存在しているだけで素晴らしい自分の生命について児童が実感をもって振り返られるようにしていきたい。そして生命の尊さについての考えを深め、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

児童はこれまで道徳科の時間に生命の尊さについて家族から受け継がれてきた生命の尊さ(連続性)や限りある生命を精一杯生きる尊さ(有限性)を視点に学習を重ねてきた。「生きる」ことの対極にある「死」を意識することで、生命の尊さについての考えを深めてきた。また、公正、公平、社会正義や感謝の学習においても生命の尊さについて副次的に考えてきた。体育の保健、理科の生物の学習においても生命の神秘さについてふれてきている。日常生活においても、安全指導の中で、「命は唯一無二」であることについても考えてきている。しかし、それらがすべて実感を伴った理解であるとは言えないため、生命の尊さを心から理解するための指導が必要であると考え。本時の学びである、家族の自分に対する思いから考える生命の尊さを視点に、自分のこれまでの生命に関わる経験を真摯に振り返ることで実感を伴った生命の尊さの理解が得られると考える。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、幸恵が友達との会話の中で何気なく話題としていた「この世から去れ!」という言葉が、突然自分に向けられた時の心の動きを中心に描かれている。自分の存在意義が揺らぎ、悩む幸恵に母親がかけた言葉に心がほどけていく、という内容である。家族が自分に対して向ける思い=大切な宝物、ということ教材活用を中心とする。

①幸恵が『この世から去れ!』と書かれた紙を見た場面

何気なく使っている言葉であっても時に相手を深く傷つけたり、悩ませてしまったりすることを考えさせるために、自分を否定されたようなきもちになった幸恵に共感させる。

②幸恵が家族写真を見つめていた場面

自分一人で悩みを抱えることの葛藤や苦しみが家族の存在に気づくことで和らいでいくことを考えさせるために、家族写真を見つめていた幸恵に共感させる。

③幸恵が『幸恵は家族の宝物よ。』と言われた場面

存在そのものが周りの人にとってはかけがえのないものであることを考えさせるために「幸恵」に共感させる。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 ねらいとする道徳的価値への問題意識をもたせる。 ○みんなの宝物を教えてください。 ○宝物ってどんなもののことを言うのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム ・サッカーボール ・自転車 ・家族 ・いのち ・一番大切なもの ・唯一のもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への問題意識をもたせるために、宝物をきく。本時で扱う「宝物」とは違い、遊び道具などが予想されるが、その違いについても道徳的価値の理解を図る場面で活用する。
展開	2 教材「わたしって何」を読んで、話し合う。 (1)「この世から去れ！」と書かれた紙を見たとき、幸恵はどんなことを考えたでしょう。 (2)家族写真を見つめていた時、幸恵はどんなことを考えていたでしょう。 (3)「幸恵は家族の宝物よ。」と言われた時、幸恵はどんなことを考えたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・悲しい。 ・嫌われているのかな。 ・どうしてこんなことをされるんだろう。 ・イライラする。 ・学校に行きたくない。 ・死んでしまいたい。 ・私は生まれてきてよかったのだろうか。 ・私が生まれてきた意味はあるのかな。 ・家族も私がいなくなった方がいいと思っているのかな。 ・そんなに大切に思ってもらってうれしい。 ・家族のためにも頑張らなくちゃ。 ・おかあさんや家族のこともたからものにして大切にしたい。 ・今まで育ててくれてありがとう。 ・元気がでてきたな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が範読をする。 ・話のすじを確認する。 ・何気なく使っている言葉であっても時に相手を深く傷つけたり、悩ませてしまったりすることを考えさせるために、自分を否定されたようなきもちになった幸恵に共感させる。 ・自分一人で悩みを抱えることの葛藤や苦しみが家族の存在に気づくことで和らいでいくことを考えさせるために、家族写真を見つめていた幸恵に共感させる。 ・生命の大切さについて考えさせるために、「宝物」とは何であるかを考えさせる。 ・存在そのものが周りの人にとってはかけがえのないものであることを考えさせるために「幸恵」に共感させる。 ・生命は一人にただ一つであり、かけがえのない存在であることを考えさせるため

	<p>(4)今日の学びを通して、生命を「宝物」のように大切に思えるのはなぜでしょう。 ⇒ 中心発問</p> <p>3 自己を見つめる。 ○あなたはこれまで、命を「宝物」のように大切にされていると感じたことはありますか。また、大切にされたことはありますか。よく思い出して書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がいることで家族が幸せな気持ちになれるから。 ・家族からもらったものだから。 ・家族が一生懸命育ててくれるから。 ・辛いことがあっても家族が守ってくれるから。 <ul style="list-style-type: none"> ・病気になったときに、看病してもらったことがある。 ・けがした時に「大丈夫？」と声をかけてもらってうれしかった。 ・誕生日のお祝いをしてもらえる。 ・自分の好きなものをお弁当に入れてくれる。 ・ペットのお世話を一生懸命やっている。 	<p>に、「家族の宝物」という言葉を活用する。また、道徳的価値の理解につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値の理解を深めることを意図した発問である。 ・生命の尊さには多様な側面があるが、ここでは本時から得られた学びを中心に生命の尊さについて理解を深める。 <p>☆生命が「宝物」のように大切なのはどうしてかについて話し合い、生命のかけがえなさについて多様な視点から考えている。(話し合い・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値の理解をもとに自己を見つめることを意図した活動である。 ・(4)で話し合った意見をもとに、特に自分が大切にされた経験を想起させ、自分自身の存在のかけがえなさを実感できるようにさせる。 ・書く学習が進まない児童には個別に視点を与えて支援する。 <p>☆生命がかけがえのない大切なものであることについて、これまでの自分を振り返っている。</p> <p>(ワークシート)</p>
<p>終末</p>	<p>4 映像を視聴する。 ○「生まれてきてよかった」「生きてきてよかった」と思えるような映像を視聴する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教師の児童への思いを知り、生命のかけがえなさを実感させる。 ・あたたかい雰囲気ですべてが終わるようにする。

5 他の教育活動との関連

- ・道徳科においては、公正、公平、社会正義の内容や家族愛の学習に本時の学びを関連させる。
- ・新型コロナウイルスに関連する安全指導や保健指導に生かす。
- ・卒業関連の取組の中で、家族や友達とのつながりや支え、支えられる生命についてふれる。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・生命が「宝物」のように大切なのはどうしてかについて話し合い、生命のかけがえなさについて多様な視点から考えている。(話し合い・発言)

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・生命がかけがえのない大切なものであることについて、これまでの自分を振り返っている。
- (ワークシート)

7 板書計画

大切な宝物よ。



宝物…

- ・自分がいることで家族が幸せな気持ちになれるから。
- ・家族からもらったものだから。
- ・家族が一生懸命育ててくれるから。
- ・辛いことがあっても家族が守ってくれるから。

『幸恵は家族の宝物よ。』と言われたとき



- ・私は生まれてきてよかったのだろうか。
- ・私が生まれてきた意味はあるのかな。
- ・家族も私がいなくなった方がいいと思っているのかな。

『この世から去れ!』と書かれた紙を見たとき



家族写真を見つめていたとき

- ・悲しい。
- ・嫌われているのかな。
- ・イライラする。
- ・どうしてこんなことをされるんだろう。
- ・学校に行きたくない。
- ・死んでしまいたい。

今日の学びを通して、生命を「宝物」のように大切に
思えるのはなぜでしょう。

宝物

- ・ゲーム
- ・サッカーボール
- ・自転車
- ・家
- ・いのち

一番大切なもの

- ・唯一のもの

わたしって何



幸恵って、最近生意気だと思わない?

わたしって何

